

# 2019(令和元)年度学校評価計画表

教育目標	「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)を推進します」	総合評価
	<p>環境、貧困、人権、平和、開発といったさまざまな世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れ、これらの課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組みます。それによって、課題の解決に向けた新たな価値観や行動を生み出し、将来持続可能な社会を創造していく担い手を育みます。</p> <p>① 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒を育成する。                  ② 自主・自立的な姿勢や態度を研ぎ、高い志を持って学業のみならず、すべてのことに全力を尽くす生徒を育成する。                  ③ 文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成する。                  ④ 身近な問題を自分のこととして捉え、地域の方々と協働し、「地域とともにある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒を育成する。                  ⑤ 個人や自校、自国のためだけでなく、地球や人類といった視点で課題解決に取り組み、学校、地域、社会の人々とのつながりを深め、この世に息づくすべての命を大切にす優しさや思いやりのある生徒を育成する。</p>	

学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である

年度重点目標				学校自己評価				学校関係者評価 および改善方法
部	大目標	目標	具体的な取り組み・実施計画	評価指標	評価	評価の理由	課題及び改善	
総務部	式典などの厳格化と刊行物の充実化 学校を取り巻く団体等との関係構築	式典の厳格化と刊行物の充実	・式典において、丁寧な実施計画と生徒への式典の位置付けを徹底 ・刊行物の企画・編集・校正等の問題点の改善	授業評価アンケート				
		校務分掌間の連携強化	・学内の組織改革から、校務分掌間の報告・連絡・相談の徹底と連携力の強化	各部会等の反省事項				
		育英会・同窓会・近隣地域等とより良い関係作りに取り組む	・学校現場だけでなく、学校を支えて頂いているそれぞれの団体・組織との連携 ・より良い教育環境の構築化に取り組む。	授業評価アンケート				
教務部	魅力のある教育課程の編成	新教育課程の編成	・時代のニーズを先取りし、建学の精神や教育目標に沿った奈良育英にふさわしい教育課程を編成する。	—				
		新学習指導要領が求める人材育成を踏まえた授業への改善	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ②①の実現に向けた校外での研修の推奨 ③②を経た知見や情報の共有	①授業評価アンケート ②研修参加数の数値化 ③研修参加報告書				
		ICTを活用した指導の充実	①必要なICT環境の検討・充実 ②ICTを活用した授業等の実践 ③ICTを活用した授業実践の蓄積・共有	①学校におけるICT環境の整備方針(文部科学省)との比較による整備比率向上 ②ICTを活用した授業公開の実施 ③②による校内実績の蓄積と各種研修への案内・参加				
進路指導部	希望する進路の「保障」から「保証」へ	キャリア教育 6ヶ年/3ヶ年計画の改定	キャリア教育に関する行事の精査、キャリアガイダンス、職業理解、学部研究、職場体験、ボランティア、体験学習、講演会、面接、志望理由書、近畿統一用紙、高大連携、進路HR					
		管理体制の強化	自習室…快適な自習環境の提供(環境委員連携) 朝学習…全クラスの実施状況確認 内容の検証 進学情報…説明会、対応記録 進路指導部と学年で共有	アンケート(生徒・保護者・教員) 自習室利用状況集計 各種意識調査				
		広報活動の充実	進路説明会、出願説明会、高大連携協定校・指定校説明会、進路指導部通信、土曜プログラム、進路情報誌配置、各種案内チラシ配付、ホームページ、育英会委員会報告	学校評価アンケート				
		数値目標 国公立大学20 難関私立70	選抜コース担当者会、進学補習、模擬試験受験対策・分析、学習合宿、キャリアガイダンス、土曜プログラム、学力向上委員会、進路指導部通信での情報提供、自習空間の提供	第一志望の実現 大学合格数 模試成績				
		基本的な生活習慣及び自己規律の確立を図るための取り組みの推進	・年間遅刻0の生徒が80%…不注意による遅刻を減らす ・予鈴準備、チャイムスタートの徹底	遅刻率、学内巡視				

生徒指導部	たくましい生徒、高い志をもつ生徒、助け合う心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援	生徒の夢の実現を支援するために、生徒が安心してよりよい学校生活をおくれるようにサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を把握し、情報共有、共通理解を図り、有効な指導を展開する。</li> <li>保護者や関係諸機関との連携強化を図る。</li> <li>携帯電話・SNSの使用に関する啓発</li> </ul>	苦情件数、生徒保護者アンケート、トラブル数			
		不易と流行を常に意識し、新たな知見を取り入れ、生徒一人一人をしっかり見つめ、生徒のやる気の喚起	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行の規定、ルールの見直しへの準備・推進を行う。</li> <li>積極的な地域社会と係わる取り組みを推進する。</li> </ul>	ボランティア、地域連携の実施回数			
		生徒が主体となった生徒会活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動活性化へ向けての準備を行う。</li> <li>他校の情報を収集する。</li> </ul>	生徒アンケート等			
入試広報部	命の教育・ESD教育・ユネスコ認定 この3本柱の具現化、中学校・高等学校共に、定員の確保を常態化させる。安心安全信頼される広報を心がけ将来的には、専願100パーセントを達成	受験生・入学定員の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>徹底した塾訪問・中学校訪問を行うとともに、外部への発信を強める。</li> </ul>	次年度実績			
		入試広報部内の改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任の所在、部内ガバナンス強化、部内研修を強める。</li> </ul>	部内アンケート			
		入試改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和という時代に即して、柔軟かつ先駆的な入試を導入する。</li> </ul>	今年度実績			
		各種広報行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレドの理念を用い、品格のある接遇、立ち居振る舞いを心がけて、専願生確保に努める。</li> </ul>	各種アンケート			
保健安全部	自他の生命を尊重する思いやりのある生徒、志を高く持ち自己実現に向けて努力する生徒の育成とその支援	生徒の実態把握と情報共有・共通理解 職員全体での生徒の心に寄り添った指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談・保健指導の充実と職員研修の実施</li> </ul>	学年会等での情報共有 反省用紙			
		環境整備の徹底と規範意識の醸成 組織的な学校安全体制の確立と、学校防犯・防災の基盤作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動の充実と環境美化の徹底</li> <li>講習会・避難訓練を通して、集団の一員としての防犯・防災の意識を養わせる。</li> </ul>	地域からの声 反省用紙			
		生徒の主体性を引き出す活動の企画と、学校生活の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や委員会を中心にして、生徒が主体的に取り組むことのできる体育行事を目指す。</li> <li>運動部部活動指導(キャプテン・クラブ顧問会議)を通して活力ある学校を目指す。</li> </ul>	実施後のミーティング 反省用紙 生徒会委員会等での意見交換			
国際文化部	グローバル・文化芸術の視点で、多様なつながりのある学びの場を構築	ユネスコスクール加盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>進む方向性への理論とその信頼性の裏打ち作業</li> <li>校内のESD教育理解とその実践を拡大(研修・講演・実践)</li> <li>6月のユネスコスクールチャレンジ期間への申請とその継続的な活動の計画</li> </ul>	アンケート(生徒・保護者・教員) ユネスコからの回答			
		グローバル教育事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員・保護者・生徒に向けた、講演会や研修の実地</li> <li>多様な文化的背景を持つ子供たちの受け入れ体制の検討</li> <li>留学・海外研修の充実</li> <li>国際交流、海外連携校の拡大</li> </ul>	アンケート(生徒・保護者・教員) 留学・海外研修の参加人数およびレポートなどの成果物			
		文化・芸術教育の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化部の活動実態の把握と活動の場の拡大</li> <li>童謡祭や修学旅行等の文化的行事の充実と意味付け</li> <li>校内アートの充実</li> <li>図書館の更なる充実とその教育的利用方法の検討</li> </ul>	アンケート(生徒・教員) 意味づけ作業とその目的が共有された活動となったか。			